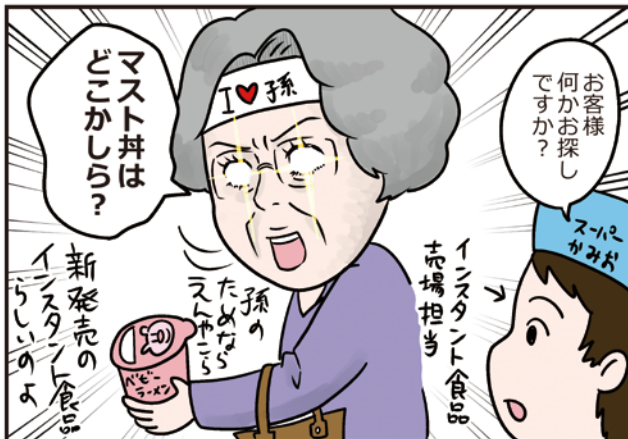
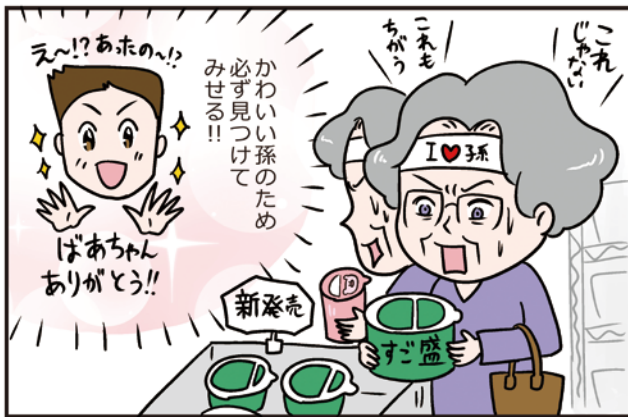


IT日和

イラスト 山本コウカ

Vol.26 I♥孫



★ マストドンについての詳細は特別解説を読んでね!

App Store アプリのお知らせ

アプリをダウンロードすると iPad, iPhone, iPod Touch といった iOS 端末から読むことができます!



会誌「情報処理」



デジタルプラクティス

アプリのダウンロードはこちら (無料)

デジタルプラクティス



情報処理学会 会員募集中!!

ITに関する最新情報や研究発表の場の提供を通じて、あなたのお役に立ちます



研究会がたくさん♪

自分に合った分野が見つかりそう!

詳しくは <http://www.ipsj.or.jp/> をご覧ください

お問合せ

一般社団法人 情報処理学会 会員サービス部門
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
Tel.(03)3518-8370 Fax.(03)3518-8375 mem@ipsj.or.jp

名誉会員の紹介

第 615 回理事会（2017 年 1 月）の議を経て、下記の方が 2017 年度定時総会（2017 年 6 月 2 日）において名誉会員に推挙されました。
（記載は会員番号順）



寛 捷 彦 君
かけひ かつひこ

1970 年	東京大学工学系大学院修了 工学修士
1970 年	東京大学工学部 助手
1974 年	立教大学理学部 講師
1978 年	立教大学理学部 助教授
1986 年	早稲田大学理工学部 教授
2007 年～2016 年 3 月	早稲田大学基幹理工学部 教授
2016 年	早稲田大学 名誉教授
1998 年	ACM-ICPC 日本 ICPC Board 議長
2003 年	パソコン甲子園プログラミング部門 審査委員長
2010 年	特定非営利活動法人情報オリンピック日本委員会 理事長
2016 年	公益財団法人情報科学国際交流財団 理事長

本会関係略歴

- (1) 1970 年 7 月入会
- (2) 理事（1994 年度～1995 年度，2003 年度～2004 年度）
- (3) IFIP 委員会委員（1987 年～2006 年）
- (4) プログラミング言語研究会主査（1989 年～1990 年）
- (5) 情報規格調査会 SC22 専門委員会委員長（1996 年～2005 年）
- (6) 情報規格調査会技術委員会委員（1996 年～2010 年）
- (7) 情報処理教育委員会委員長（2003 年～2015 年）
- (8) アクレディテーション委員会副委員長（2006 年～2015 年）
- (9) プログラミングシンポジウム運営委員会幹事（2006 年）
- (10) 第 69 回全国大会プログラム委員長（2007 年）
- (11) 会誌編集委員会委員（2013 年～2014 年）
- (12) フェロー（2001 年度）
- (13) 功績賞（2014 年度）



鈴木 健二 君
すずき けんじ

1969 年 3 月	早稲田大学理工学部電気通信学科卒業
1969 年 9 月～1970 年 9 月	Invited Student, Philips International Institute of Technological Studies, Eindhoven, The Netherlands
1972 年 3 月	早稲田大学大学院理工学研究科（修士）修了
1976 年 10 月	早稲田大学大学院理工学研究科（博士）修了（工学博士）
1976 年 11 月	国際電信電話株式会社入社
1997 年 7 月	国際電信電話株式会社研究所 審議役（副所長）
1998 年 4 月	株式会社 KDD 研究所 代表取締役副所長
2000 年 3 月	KDD 株式会社退職
2000 年 4 月	株式会社アドバンスト・コミュニケーションズ 取締役副社長
2000 年 10 月	株式会社アドバンスト・コミュニケーションズ 取締役会長
2002 年 12 月～2005 年 11 月	有限会社ケニスブロン 取締役社長

2005年12月～2011年3月	電気通信大学情報工学科 教授
2012年1月～現在	有限会社ケニスプロン 取締役社長
1991年4月～1993年3月	東洋大学工学部 非常勤講師
1992年4月～2004年3月	電気通信大学大学院情報システム学研究科 客員教授
1998年4月～2000年6月	株式会社国際電気通信基礎技術研究所 非常勤監査役
1999年12月～2001年11月	社団法人電信電話技術委員会 (TTC) 標準化会議 副議長
2002年7月～2007年3月	静岡大学情報学部または地域共同センター 客員教授

本会関係略歴

- (1) 1976年11月入会
- (2) 理事 (会誌担当) (1997年度～1998年度)
- (3) 監事 (2002年度～2003年度)
- (4) 会誌編集委員会委員 (1983年度～1986年度)
- (5) 情報規格調査会 機能標準専門委員会委員 (1988年7月～1992年9月)
- (6) 情報規格調査会 SC6 専門委員会委員 (1988年8月～1995年4月)
- (7) マルチメディア通信と分散処理研究会幹事 (1993年度～1994年度)
- (8) 論文誌査読委員 (1997年度～1998年度)
- (9) 情報規格調査会 5号委員 (1998年7月～2000年7月)
- (10) フェロー (2000年度)
- (11) 功績賞 (2010年度)



寺中 勝美 君

てらなか かつみ

1976年3月	京都大学大学院工学研究科数理工学専攻修士課程修了
1976年4月	日本電信電話公社 (現NTT) 入社
1999年7月	NTT サイバーコミュニケーション総合研究所企画部長
2001年7月	NTT 西日本株式会社研究開発センタ 所長
2004年4月	NTT レゾナント株式会社 取締役
2006年6月	NTT ソフトウェア株式会社 取締役
2011年6月	同社 常務取締役
2013年6月	同社 監査役
2016年6月～現在	同 エクゼクティブ・アドバイザー

本会関係略歴

- (1) 1979年入会
- (2) 理事 (2000年度～2001年度)
- (3) 副会長 (2011年度～2012年度)
- (4) 情報規格調査会理事 (2000年度)
- (5) 教科書編集委員会委員 (2001年度～2004年度)
- (6) 技術応用運営委員会委員長 (2014年度～)
- (7) フェロー (2002年度)
- (8) 功績賞 (2013年度)

2016年度功績賞

功績賞は、情報処理に関する学術または関連事業に対し特別の功労があり、その功績が顕著な会員に贈呈されます。

本年度の受賞者は関連規程に基づき、第616回理事会（2017年3月）の議を経て、下記の3君に決定され2017年度定時総会（2017年6月2日）において、賞状および賞牌が授与されました。（記載は会員番号順）



阪田 史郎 君

さ か た し ろ う

本会正会員阪田史郎君（フェロー）は、永年にわたり情報通信ネットワーク分野の研究・開発および教育に関して先導的な役割を果たしてこられました。

1974年日本電気株式会社に入社されて以来、コンピュータネットワーク、マルチメディア通信、モバイルコンピューティング等、コンピュータと通信の統合領域において、数多くの研究・開発業績をあげられ、特に、マルチメディア通信システム技術における先駆的な研究成果となるマルチメディア分散会議システムの開発とその実用化により、本分野の発展に多大な貢献をされました。また、インターネットプロトコルなどこの分野の国際標準化活動にもご尽力されました。パーソナルC&Cシステム研究所所長、インターネットシステム研究所所長などを歴任され、指導的な立場から、当該研究分野の産業発展に大きく寄与されました。

2004年には千葉大学に移られ、モバイルアドホックネットワーク、ユビキタスネットワーク分野における先駆的な研究業績をあげられるとともに、教育分野にも力を入れ、多くの研究者・技術者を育成してこられました。さらに、インターネット、マルチメディア通信、ユビキタスネットワーク関連の数多くの著書を上梓され、情報ネットワーク分野の啓蒙・普及にも尽力されました。

学協会の活動においては、本会理事（1997年度～1998年度）、監事（2004年度～2005年度）、教科書編集委員会委員長（2010年度～現在）などを歴任されたほか、電子情報通信学会などの運営にも深く関与され、情報処理分野の発展に大きく貢献されました。これらの卓越した功績により、2002年には本会フェローを授与されているほか、2007年には電子情報通信学会フェロー、2010年には電子情報通信学会顕彰功労賞を授与されています。

以上のように、同君が国内外の学術の発展と研究・教育ならびに本会の発展に尽くした功績は、まことに顕著であります。



田中 克己 君

た な か か つ み

本会正会員田中克己君（フェロー）は、永年にわたりデータベースやWebコンピューティングに基づいた情報検索技術の研究開発に携わり、その業績はマルチメディアデータベース、情報信憑性分析技術など多岐にわたるものです。

1979年に神戸大学助手に着任されて以来、データベースモデルの理論的研究やオブジェクト指向データベース、ハイパーテキストに関する研究において、時代に先駆けた特筆すべき業績をあげられました。1994年神戸大学工学部教授に就任された後には、通信放送機構「次世代デジタル映像通信の研究開発」統括責任者として、マルチメディアデータベースやデジタルコンテンツマネジメント技術、3次元デジタルコンテンツ管理技術等の先進的な技術開発の業績をあげられました。2001年に京都大学教授に着任されて以来、研究対象をWebコンテンツから、当時爆発的に広がりつつあったモバイル環境におけるデジタルコンテンツにいち早く拡大されました。さらには、こうしたモバイルコンテンツの検索技術やテレビのデジタル放送

化を見据えた通信・放送デジタルコンテンツ融合化技術、情報爆発時代を見据えたデジタルコンテンツにおける情報の信頼性分析技術等の常に新しい時代を切り拓く先駆的な研究開発実績をあげられ、データベース、Web情報検索、インターネット情報の信頼性分析技術、情報検索意図の分析等の情報処理に関わる幅広い分野の発展に極めて大きな貢献をされました。

これらの研究業績は、近畿経済産業局長表彰、船井情報科学振興賞、日本データベース功労賞、DASFAA Outstanding Contributions Awards等多くの賞によって国内外から高く評価されています。また、本会データベースシステム研究会主査（1995年度～1998年度）、理事（2000年度～2001年度）、論文誌「データベース（TOD）」共同編集委員長（1998年度）、論文誌（ジャーナル）編集委員長（2001年度）、第63回全国大会プログラム委員長（2003年度）、関西支部長（2007年度～2008年度）等を歴任され、本会フェローを授与されるとともに、神戸マルチメディア・インターネット協議会会長、日本データベース学会理事、副会長、（独）情報通信研究機構メディアインタラクショングループリーダー、京都大学では全学情報教育専門委員会委員長、学際融合教育研究推進センター高度情報教育基盤ユニット長、21世紀COEプログラム「知識社会基盤構築のための情報学拠点形成」拠点リーダー、

グローバル COE プログラム「知識循環社会のための情報学教育研究拠点」拠点リーダー、情報学研究科附属情報教育推進センター長等を務められる等、本会並びに情報処理分野の発展や同分野の人材育成に大きく貢献されました。このような業績により、同君が我が国のみならず世界的な情報処理分野の発展に多大なる貢献をするとともに本会の活動の発展に尽力された功績は誠に顕著であります。



中田 登志之 君

な か た と し ゆ き

本会シニア会員中田登志之君は永年にわたり、並列分散処理システムの研究開発に携われてこられてきました。

京都大学の修士課程から博士後期課程（1981年～1985年）において、VLIW制御計算機とQA-1、QA-2のアーキテクチャに関して、研究を行われました。1985年に日本電気株式会社に入社されて以来、並列計算機システムCenju、Cenju-II、Cenju-3、Cenju-4の研究開発に携われました。Cenju/Cenju-IIの経験を元に、Cenju-3、Cenju-4はNECで製品化され、国内および海外数カ国で多様な研究者に活用されました。また、Cenju-3上では並列プログラミング言語のデファクトとなるMPI（Message Passing Interface）の研究にも携わり、並列プログラミングライブラリの実用化の一端を担われました。その後、RWCPプロジェクトでの並列分散環境の研究、ビジネスマグネットコンピューティングプロジェクトへの参画などの大規模分散計算システムの研究に携われました。後者の成果の一つのWS-Agreementに関しては標準化

にも携わり、寄書の著者のうちの1名になられています。2015年に東京大学に移られてからは、IoT/CPSシステムなどの分散システムの研究に携われています。この間、主にQA-2とCenju関連の論文で、昭和61年度本会論文賞、本会30周年記念論文入選、平成2年度元岡賞、平成4年度本会坂井特別記念賞を受賞されています。

本会においては1998年～2001年の間、計算機アーキテクチャ研究運営委員会幹事に携われ、2015年はDICOMOの実行委員長を務められました。さらに総務担当理事（2002年度～2003年度）、企画担当理事（2008年度～2009年度）、副会長（2013年度～2014年度）を歴任され、本会の会計基盤の立て直し、実務者向け活動の強化並びに会員サービス向上に貢献されています。

以上のように、同君が並列分散システムの学術および産業の振興、並びに本会の活動の発展に尽くした功績はまことに顕著であります。

各賞表彰等(概要)

詳細は Web サイト (http://www.ipsj.or.jp/award/sho_index.html) をご覧ください

2016 年度論文賞の表彰

本賞の選考は、表彰規程および論文賞受賞候補者選定手続きに基づき、論文賞委員会(委員長 山名早人)が、対象論文 591 編* につき慎重に審議を行いました。その結果、下記の 9 編が受賞候補論文として選定され、理事会承認(2017 年 3 月 24 日付、定款上の理事会決議の省略手続きによる)を得て決定されました。なお、本会表彰規程により、2017 年度定時総会(2017 年 6 月)において著者に表彰状、賞牌および賞金が授与されました。

* 選考を行ったのは「論文誌ジャーナル」[Journal of Information Processing]「論文誌 コンシューマ・デバイス&システム」[論文誌 コンピューティングシステム]「Transactions on Computer Vision and Applications」の 5 誌です。以下 7 誌については対象論文がそれぞれ 50 編に満たないため、論文賞選定は翌年以降に持ち越すこととしました。「論文誌 プログラミング」[論文誌 数理モデル化と応用]「論文誌 データベース」[論文誌 デジタルコンテンツ]「論文誌 教育とコンピュータ」[Transactions on Bioinformatics]「Transactions on System LSI Design Methodology」

【情報処理学会論文賞】

- 「早期インシデント対応を目的とした DRDoS 攻撃アラートシステム」
[情報処理学会論文誌 Vol.57, No.9, pp.1974-1985 (2016)]
牧田 大佑 君(学生会員) 西添 友美 君
吉岡 克成 君(正会員) 松本 勉 君
井上 大介 君 中尾 康二 君
- 「線形ブレンドスキニングのための例示ベース補助骨リグ構築」
[情報処理学会論文誌 Vol.56, No.11, pp.2141-2150 (2015)]
向井 智彦 君(正会員)
- 「パブリックスペース設置型無線 AP におけるダウンリンク帯域の不正占有対策」
[情報処理学会論文誌 Vol.57, No.2, pp.426-437 (2016)]
新田 翔平 君 重安 哲也 君(正会員)
- 「クラウド上の安全で高速なキーワード検索アルゴリズムの提案」
[情報処理学会論文誌 Vol.56, No.10, pp.1977-1987 (2015)]
清 雄一 君(正会員) 竹之内隆夫 君(正会員)
大須賀昭彦 君(正会員)

- 「XPath 充足可能性を判定する多項式時間アルゴリズムの提案と評価」
[情報処理学会論文誌 Vol.57, No.5, pp.1477-1488 (2016)]
杉村 憲司 君(正会員) 石原 靖哲 君(正会員)
藤原 融 君(正会員)

【Journal of Information Processing Outstanding Paper Award】

- 「Zipf Distribution Model for Quantifying Risk of Re-identification from Trajectory Data」
[Journal of Information Processing Vol.24, No.5, pp.816-823 (2016)]
Hiroaki Kikuchi 君(正会員)

Katsumi Takahashi 君(正会員)

【情報処理学会論文誌 コンシューマ・デバイス&システム 優秀論文賞】

- 「電力ディスアグリゲーション技術の小規模店舗適用」
[情報処理学会論文誌 コンシューマ・デバイス&システム Vol.6, No.2, pp.32-42 (2016)]
尾崎 友哉 君(正会員) 内田 尚和 君
峰野 博史 君(正会員)

【情報処理学会論文誌 コンピューティングシステム 優秀論文賞】

- 「新しいタスクモデルによるメニーコア環境に適した MPI ノード内通信の実装」
[情報処理学会論文誌 コンピューティングシステム Vol.8, No.2, pp.36-54 (2015)]
島田 明男 君(学生会員) 堀 敦史 君(正会員)
石川 裕 君(正会員)

【IPSJ Transactions on Computer Vision and Applications Outstanding Paper Award】

- 「Computer Simulation of Color Confusion for Dichromats in Video Device Gamut under Proportionality Law」
[IPSJ Transactions on Computer Vision and Applications Vol.7, pp.41-49 (2015)]
Hiroshi Fukuda 君(正会員)
Shintaro Hara 君
Ken Asakawa 君
Hitoshi Ishikawa 君
Makoto Noshiro 君
Mituaki Katuya 君

※上記()の会員情報は論文掲載時のものです。

2016 年度業績賞の表彰

本会では、産業界における顕著な業績を顕彰するため、「業績賞」を設けております。

本賞は、情報技術に関する新しい発明、新しい機器や方式の開発・改良、あるいは事業化プロジェクトの推進において、顕著な業績をあげ、産業界への貢献が明確になったものを選定し、その貢献者に贈呈するものです。

本年度の受賞者は、「業績賞候補者推薦用紙」により推薦された候補のうち、表彰規程および業績賞候補者選定手続きに基づき、前田副会長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、第 616 回理事会承認(2017 年 3 月)を得て、下記の 3 件の業績の貢献者 15 名に決定されました。

受賞者には、本会表彰規程により、6 月 2 日に開催された 2017 年度定時総会において、表彰状、賞牌および賞金が授与されました。

- 「多種多様なデバイスをクラウドに接続する IoT 基盤技術の研究開発と実用化・標準化」

松倉 隆一 君 (正会員) 角田 潤 君
矢野 愛 君 高橋英一郎 君
長谷川一知 君

○「短時間・低通信負荷・高精度な通信速度推定技術の開発と実用化」

大芝 崇 君 (正会員) 里田 浩三 君
中島 一彰 君 (正会員) 鈴木 基広 君
三本杉國秀 君

○「カメラ搭載型エアコンの省エネ画像処理技術」

小松 佑人 君 (正会員) 浜田 宏一 君
神野 憲之 君 能登谷義明 君
木村 士良 君

○「学会誌における編集業務への貢献」

土井 千章 君 (正会員)

○「デジタルプラクティスへの査読貢献」

小林 秀承 君

○「Exciting Coding! の運営への貢献」

杉田由美子 君 (正会員)

○「プログラミングコンテスト SamurAI Coding の運営への貢献」

佐藤 靖治 君 細野 裕章 君

○「第78回全国大会開催への貢献」

重野 寛 君 (正会員)

○「FIT2016 第15回情報科学技術フォーラム開催への貢献」

柴田 啓司 君 (正会員)

2016 年度優秀教育・教材賞の表彰

本会では、情報処理教育に関して優れた教育者ならびに教材開発者を顕彰するため、優秀教育賞ならびに優秀教材賞を設けております。

本年度の受賞者は、表彰規程および同賞候補者選定手続きに基づき、萩谷昌己情報処理教育委員長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、第616回理事会承認（2017年3月）を得て、決定いたしました。

受賞者には、本会表彰規程により、6月2日に開催された2017年度定時総会において、表彰状および賞金が授与されました。

【優秀教育賞】

○「IT コンテストを通じた情報教育と組み込みシステム開発マイスターの取り組み」

松林 勝志 君 (正会員)

2016 年度学会活動貢献賞の表彰

本会では、特定分野の運営、または会員サービスの向上への貢献を顕彰するため、学会活動貢献賞を設けております。

本年度の受賞者は、表彰規程および学会活動貢献賞候補者選定手続きに基づき、前田副会長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、理事会承認（2017年1月30日付、定款上の理事会決議の省略手続きによる）を得て、決定いたしました。

受賞者には、本会表彰規程により、6月2日に開催された2017年度定時総会において、表彰状および賞牌が授与されました。

○「論文誌への査読貢献」

藤田 茂 君 (正会員) 三浦 元喜 君 (正会員)
松浦 幹太 君 (正会員)

2016 年度フェローのご紹介

2016 年度「情報処理学会フェロー」は、関連規程に基づき、フェロー選定委員会において厳正な審査を行い、理事会承認（2017年3月1日付、定款上の理事会決議の省略手続きによる）を得て、下記の7君に決定されました。

なお、2016 年度フェローには、2017 年6月2日に開催された2017 年度定時総会において、認証状が授与されました。

詳細は Web サイト (<https://www.ipsj.or.jp/annai/aboutipsj/fellow/fellow.html>) をご覧ください。

○「テキスト文書の解析と活用に関する研究およびその学術コンテンツへの適用」

相澤 彰子 君 (正会員)

○「形式仕様およびエージェント技術などの発展と実用化に対する貢献と人材育成」

大須賀昭彦 君 (正会員)

○「二次記憶情報管理、分散システムおよびソフトウェアセキュリティ研究に対する貢献」

加藤 和彦 君 (正会員)

○「ユニバーサルコミュニケーション技術の実用化と産学連携による普及推進」

木俣 豊 君 (正会員)

○「高性能・省電力プロセッサアーキテクチャ技術に対する貢献」

中村 宏 君 (正会員)

○「情報セキュリティ技術の体系的研究とセキュリティ経済学の先駆的研究」

松浦 幹太 君 (正会員)

○「画像認識と映像探索に関する先駆的研究に対する貢献」

村瀬 洋 君 (正会員)

情報処理学会デジタルプラクティス 特集号論文募集 「価値を創造するコンタクトセンタ」

● ● ▶ [投稿締切] 2017年8月7日(月) 17:00 ◀ ● ●

今回、コンタクトセンタ特集の3回目として、「価値を創造するコンタクトセンタ」をテーマに論文募集を行います。

1回目の2011年7月号では、テーマとして「進化を続けるコンタクトセンタ」を取り上げ、2回目の2014年1月号では、ソフトウェアジャパンのITフォーラムセッションにて継続的に議論してきた「経営に貢献するコンタクトセンタ」をテーマとして取り上げました。

今回、「価値を創造するコンタクトセンタ」をテーマとして取り上げた背景には、「労働人口の減少」と「人工知能を始めとする高度テクノロジーの進展」といった大きな環境の変化があります。

労働人口の減少が予測される中、人工知能やロボットが人に代わる領域を拡大し、人の作業を楽にすることが期待されています。しかし、人工知能やロボットの活用に限るだけで、人々の暮らしを本当に豊かにしていくことが可能だろうかという疑問もあります。

これまでは主に「サービスの生産性の向上」として効率化に取り組んできましたが、これからは「サービスの価値を高めること」にいつそう注力しなければなりません。より価値の高いサービスをお客様に提供し、経営に貢献し、従業員を豊かにすることができるサービスの創造が欠かせないと考えます。

そこで、コンタクトセンタでは、次の2つテーマが重要になっています。

①人工知能等の高度テクノロジーの活用：

どこまで人に代わるサービスを提供できるのか。

どこまで人の作業を楽にすることができるのか。

②高付加価値化：

サービス自体の価値を高め、より良いサービスをお客様に提供し、経営に貢献し、従業員の生活を良くすることができるのか。

本特集号では、下記のようなサービスの変革の実践に基づく先導的な知見についての論文を募集します。

- ・人工知能などの高度テクノロジーの活用により自動化や省力化を実現した。
- ・お客様のサービス利用経験の改善により顧客ロイヤリティを獲得した。
- ・サービスの収益を改善した。
- ・お客様の心に寄り添い、人ならではのサービスを提供した。
- ・これらを支える従業員の教育、従業員の満足度を向上した。



※投稿要領：Webサイトをご覧ください→ <http://www.ipsj.or.jp/dp/cfp/dp0902s.html> (応募資格は問いません)

※掲載号：2018年1月号 (Vol.9 No.2)

※特集エディタ：宮崎義文 (イーパフォーマンス・ネクスト)

※特集号編集委員：編集委員長：吉野松樹 (日立)

編集委員：伊藤 智 (産業技術総合研究所)、位野木万里 (工学院大学)、浦本直彦 (日本IBM)、海老原吉晶 (オムロン)、鬼塚 真 (大阪大学)、上條浩一 (日本IBM)、北村操代 (三菱電気)、齋藤 忍 (NTT)、齋藤正史 (金沢工業大学)、嶋々野学 (ヤフー)、澤谷由里子 (東京工科大学)、澤邊知子 (日本大学)、柴崎辰彦 (富士通)、住田一男 (人工知能学会)、那須川哲哉 (日本IBM)、平井千秋 (日立製作所)、平林元明 (日立製作所)、福島俊一 (科学技術振興機構)、富士 仁 (NTT)、藤瀬哲朗 (三菱総研)、藤原陽子 (レノボ・エンタープライズ・ソリューションズ)、峯松信明 (東京大学)、細野 繁 (日本電気)、茂木 強 (科学技術振興機構)
アドバイザー：喜連川優 (国立情報学研究所・東京大学)

ご寄付のお願い

情報処理学会は、情報処理に関する学術および技術の振興をはかることにより、学術、文化ならびに産業の発展に寄与することを目的に各種事業を戦略的に展開しております。今回、学会活動の更なる活性化を図る上で会員の皆様からご寄付を頂戴いたしたく、お願いを申し上げます。

皆様から頂きますご寄付は

情報技術を通じて、人類及び世界の発展に資するため
情報技術を中心に学術および技術の振興に資するため
将来を担う人材の育成に資するため

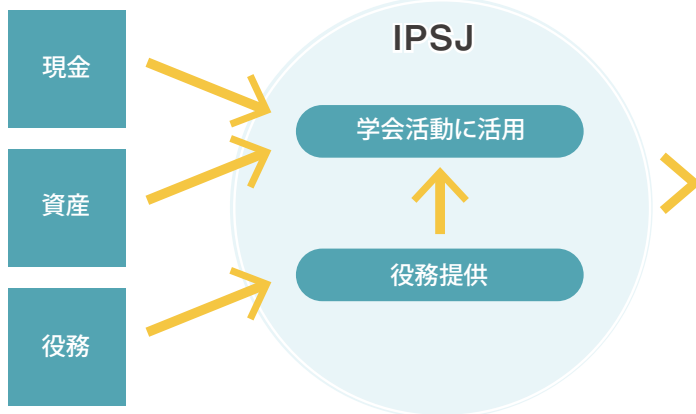
などの観点に照らし、下記の項目に活用させて頂く所存です。

今回ご寄付をお願いしたいのは現金に加えて、情報技術に関わる有形無形の資産（著作物、電子的コンテンツ、特許、ソフトウェア等）、ボランティアで提供いただける役務提供（経験や知識に基づく役務）なども含みます。お預かりいたしましたご寄付のうち用途のご指定のあるものは、そのご意向に沿った活用をさせて頂き、ご指定のないものは、その用途を学会活動の活性化に有効な諸事業で活用させて頂きます。今後も会員の皆様の絶大なるご支援・ご協力を頂きながら、学会発展のために努力して参る所存でありますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

*ご注意 情報処理学会は寄付金に対する税金が優遇される特定公益増進法人ではございません。

IPSJ 寄付

会員他寄付



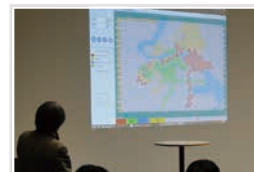
活用先

教育・育成

情報入試 | 子ども教室 | パソコン教室

社会貢献

表彰
国際活動
規格標準化
情報資産保存
学会諸事業
その他



詳しくはこちら

<http://www.ipsj.or.jp/annai/outward/donation.html>

お問合せ

一般社団法人 情報処理学会 管理部門

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F

TEL 03-3518-8374 FAX 03-3518-8375

✉ soumu@ipsj.or.jp

会員の広場

Member's Voice

今月の会員の広場では、4月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、巻頭コラム「グランドチャレンジの追求」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■タイトルにある「グランドチャレンジ」という用語の定義が本文中に明記されておらず、専門外の読者に対して不親切と思う。(匿名希望)

編集委員会特別企画「情報処理学会公式 LINE スタンプができました!!」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■意図は分かるが、スタンプのデザインがリアルすぎないであろうか?(横山久美)

■内輪受けの自虐ネタばかりで、がっかりした。ジュニア会員や若手会員の増加や活性化を望むならば、自虐ネタばかりでなく、ポジティブな内容も盛り込んでほしかった。新しいメディアであるLINEに目を向けたことは学会の取り組みとして評価できますので、ポジティブでグローバルで多様性に富む第二弾のスタンプ開発を望みます。(匿名希望)

■夫が会員です。「情報処理」にマンガが載るようになってから、楽しみに開封するようになりました。4月号のシールがまた大変良くて、夫息子で取り合いになっています。ぜひこのシールを通販してください。(匿名希望)

■スタンプは、文字に比べて少ない入力コストで多くの情報が伝えられる優れものと理解した。シールを作ったり、オンラインストアで販売したり、学会の本気度がうかがわれる。(匿名希望)

■企画そのものは良いのですが、LINEスタンプのシールを特別付録にしたことは行き過ぎのように思いました。(吉田泰光)

特集「人の気づきに迫る」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■今回の特集は、医療現場だけでなく、たとえばSSTでの認知行動療法やストレスチェックテストの実施者としても活かしたいと思いました。(横山久美)

■あまり馴染みのない認知科学や心理学の特集であったが、どのような点が情報技術で実現すべき課題なのか明確に表現してほしい。(澤 佳祐/ジュニア会員)

(澤 佳祐/ジュニア会員)

■ロジックをベースとする情報処理の基本的考えには、人間的要素とは親和性がないように感じていましたが、今回の特集を通じてこれまでとは異なる視点を得て、まさに多くの「気づき」がありました。(阿部一晴)

「2. 医療・福祉の現場において、気づきを生み出す人の認知」

■ヒヤリハット、アクシデント、インシデントは医療現場であってはならないが、よくある問題です。

(横山久美)

■AI技術による医療従事者の人件費削減は、高齢社会を迎える日本の課題になるだろう。(長山知由理)

「5. 『気づき』を生み出す被疑者面接技法」

■被疑者調査の方法論というものが存在することを考えたことがありませんでしたので、新鮮でした。現状の紹介に加えて、情報処理技術への期待が述べられており、会誌に掲載する目的が明確であったと思います。

(山田菊子)

「6. パーソナリティという見地からの認知」

■とても興味深く読みました。「性格推定結果を用いた応用例」は参考文献が引かれていないため、単なる例えなのか、実際にある応用例なのかが分かりませんでした。(匿名希望)

(匿名希望)

解説「データ相互運用問題を支える技術」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■データ相互運用技術はこれからますます重要になると思います。定期的に最新技術の紹介をお願いしたいです。(匿名希望)

(匿名希望)

教育コーナー「ぺた語義：考える力を育てる」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■考える。(長壁英理子)

(長壁英理子)

連載「女子部が行く!：第11回 セミナー推進委員会」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■参加費が高くてなんとなく敷居が高いと感じていたので、すごく共感できて興味を持って読ませていただきました。(匿名希望)

(匿名希望)

シニアコラム「IT好き放題：翻訳バンク」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■仕事との関係が深かった。(吉田泰光)

(吉田泰光)

連載「会誌編集委員会女子部」については、以下のよう
なご意見・ご感想をいただきました。

■オランダ滞在記を興味深く読みました。どう働くかを
考えさせられます。さまざまな分野の方々に読んで
いただきたい内容でした。(山田菊子)

会誌の内容や今後取り上げてほしいテーマに関して、以
下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今
後の参考にいたします。

■新聞テレビなどの情報配信から、SNSなどの情報配
信に代わったことによるコンテンツ共有の違いについ
て(コンテンツ配信技術)。(匿名希望)

■IPJSJ-ONEにフォーカスしてほしいです。(匿名希望)

■産学連携、研究のコモディティ化(所属とは別に趣
味として行われている研究について)。(匿名希望)

■1年間モニタとしてアンケートに携わり、それなり
に読まないといけないプレッシャーがありました。楽し
かったです。情報処理を専門としない方々に分かり
やすくトピックを説明することの大切さに、改めて気
づいた1年でした。(匿名希望)

■レンダリング特集が読みたいです。(持田恵佑)

■さらに、実践的かつ現場目線の記事を望みます。
(荒川弘熙)

■記事の先頭にある記号(基礎・応用・専門家向け・

一般向け)について、読む・読まないのフィルタリン
グは題名で判断するため、活用した試しがない。特に、
今回の特集はすべて基礎と一般向けであったが、どん
な判断基準なのだろうか。また、それで良いのだろうか。
(匿名希望)

■自動運転技術が日進月歩なので、定期的に取り上げ
て欲しいです。(匿名希望)

■特集記事に刺激を受けて始まった研究や、特集記事
に書かれた情報システムの要望に応えるような研究が
もしありましたら、取り上げていただきたいです。
(匿名希望)

■生体工学に興味があります。特集を希望します。
(匿名希望)

■今回は抽象的なことが多く、理解しにくいものが多
かった。具体的なものや実践しやすいものがあった方
がより良いかもしれない。(匿名希望/ジュニア会員)

■1年間、大変にお世話になりました。これほど真剣
に会誌を読んだのは、10数年前に土木学会誌のモニタ
を引き受けたとき以来です。会誌は専門分野以外の情
報を手に入れる機会を与えてくれるということを実感
しました。これからも読み続けたいと思います。なお、
表紙の選定に疑問を呈しましたが、1つの絵として見る
場合には、毎月変わるキャンパスの絵も含めて興味深
い作品と考えます。(山田菊子)

【本欄担当 中野圭介, 森田 一/会員サービス分野】

これらのコメントはWeb版会員の広場「読者からの声」<URL : <http://www.ipsj.or.jp/magazine/dokusha.html>>にも掲載しています。
Web版では、紙面の制限などのため掲載できなかったコメントも掲載していますので、ぜひ、こちらをご参照ください。
会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会Webページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、

- ・記事に対する感想、意見
- ・記事テーマの提案
- ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
- ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言

など自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

なお、「道しるべ」については

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/magazine/sippitsu/michishirube.html>>で

これからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

※ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝または記念品を進呈いたします。

掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。
なお、意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いたします。

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/privacypolicy.html>>

応募先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F
一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門
E-mail : editj@ipsj.or.jp Fax (03) 3518-8375
<http://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>

ご意見をお寄せ
ください!



IPJS カレンダー

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
	論文誌「運用でカバーする時代の終焉へ向けてのインターネットと運用技術」特集への論文募集 http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/18-P.html	6月19日(月)		
	論文誌「ソフトウェア工学」特集への論文募集 http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/18-H.html	8月2日(水)		
	デジタルプラクティス「価値を創造するコンタクトセンタ」特集論文募集 http://www.ipsj.or.jp/dp/cfp/dp0902s.html	8月7日(月)		
	論文誌「情報システム論文」特集への論文募集 http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/18-N.html	8月10日(木)		
6月17日(土)～	第115回音楽情報科学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/mus115.html	4月27日(木)	当日のみ	お茶の水女子大学
6月18日(日)				
6月19日(月)	第8回高齢社会デザイン研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/asd8.html	5月20日(土)	当日のみ	東京大学
6月23日(金)～	第113回数値モデル化と問題解決・第50回バイオ情報学合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/mps113bio50.html	4月28日(金)	当日のみ	沖縄科学技術大学院大学メインキャンパス
6月25日(日)				
6月24日(土)	第38回インターネットと運用技術研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/iot38.html	5月1日(月)	当日のみ	徳島大学 常三島キャンパス
6月28日(水)～	マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO2017)シンポジウム http://dicomo.org/cfp/	3月21日(火)	5月30日(火) 17:00	定山溪万世閣ホテル ミリオーネ
6月30日(金)	四国支部報告会 http://www.ipsj.or.jp/annai/shibu/shibu_tayori2017.html			高知工科大学 永国寺キャンパス
6月30日(金)～	第45回組込みシステム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/emb45.html	5月5日(金)	当日のみ	東海大学 高輪キャンパス
7月1日(土)				
7月6日(木)～	第105回ドキュメントコミュニケーション研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/dc105.html	5月15日(月)	当日のみ	凸版印刷(株) 印刷博物館 ゲーテンバルクルーム
7月7日(金)				
7月14日(金)～	第78回コンピュータセキュリティ・第24回セキュリティ心理学とトラスト合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/csec78spt24.html	5月17日(水)	当日のみ	内田洋行 東京本社ショールーム
7月15日(土)				
7月15日(土)	第38回ゲーム情報学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/gi38.html	5月25日(木)	当日のみ	倉敷市芸文館
7月19日(水)～	第232回自然言語処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/nl232.html	6月7日(水)	当日のみ	首都大学東京 日野キャンパス
7月20日(木)				
7月19日(水)～	第196回ソフトウェア工学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/se196.html	5月16日(火)	当日のみ	函館コミュニティ プラザ
7月21日(金)				
7月20日(土)	第188回知能システム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/ics188.html	6月9日(金)	当日のみ	(株) LIFULL 本社8階
7月22日(土)	第127回情報基礎とアクセス技術研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/ifat127.html	6月14日(水)	当日のみ	東京大学 駒場Iキャンパス
7月26日(水)～	2017年並列/分散/協調処理に関する『秋田』サマー・ワークショップ(SWoPP2017) https://sites.google.com/site/swoppweb/	5月12日(金)	当日のみ	アトリオン (秋田市)
7月28日(金)				
7月27日(木)	連続セミナー2017 第2回「人工知能の基盤技術」 http://www.ipsj.or.jp/event/seminar/2017/index.html		定員になり次第	化学会館/大阪大学 中之島センター
7月27日(木)～	第117回音声言語情報処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/slp117.html	5月15日(月)	当日のみ	秋保リゾート ホテルクレセント (仙台市)
7月29日(土)				
8月3日(木)～	第97回オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/avm97.html	6月1日(木)	当日のみ	NHK放送技術研究所 講堂
8月4日(金)				
8月5日(土)	第189回知能システム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/ics189.html	6月30日(金)	当日可	国際高等セミナーハウス (軽井沢)
8月7日(月)～	第20回画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2017) http://cvim.ipsj.or.jp/MIRU2017/		当日可	広島国際会議場
8月10日(木)				
8月17日(木)～	情報教育シンポジウム2017(SSS2017) http://ce.eplang.jp/index.php?SSS2017	5月15日(金)	当日可	ウイシュトンホテル・ユウカリ (千葉県佐倉市)
8月19日(土)				
8月20日(日)～	第14回ネットワーク生態学シンポジウム http://www.neteco.jp/symposium/2017/		定員になり次第	北陸先端大 (まつさき旅館)
8月21日(月)				
8月23日(水)～	第174回ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/hci174.html	6月23日(金)	宿泊申込締切 2017年8月7日(予定)	聖護院御殿荘 (京都市)
8月24日(木)				
8月24日(木)～	組込みシステムシンポジウム(ESS2017) http://www.sigemb.jp/ESS/2017/			下呂温泉 水明館
8月25日(金)				
8月24日(木)～	平成29年度電気関係学会東北支部連合大会 http://www.ecei.tohoku.ac.jp/tsjc/index.html	6月23日(金)		弘前大学 文京町地区キャンパス
8月25日(金)				
8月30日(水)～	IWSEC2017(12th International Workshop on Security) http://www.iwsec.org/2017/			広島国際会議場 (広島市)
9月1日(金)				
8月30日(水)～	ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2017(SES2017) http://ses.sigse.jp/2017/	5月12日(金)	参加登録開始は 2017年7月を予定	早稲田大学 グリーン コンピューティングシステム研究開発センター
9月1日(金)				

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
8月30日(水)～	DAシンポジウム2017	6月9日(金)		山代温泉
9月1日(金)	http://www.sig-sldm.org/das/			ゆのくに天祥
9月7日(木)～	平成29年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会	6月26日(月)		名古屋大学
9月8日(金)	http://www.ipsj-tokai.jp/rengo2017/			
9月11日(月)	平成29年度電気関係学会北陸支部連合大会	7月25日(火)		富山大学
9月12日(火)～	FIT2017第16回情報科学技術フォーラム			東京大学
9月14日(木)	http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2017/			本郷キャンパス
9月16日(土)～	エンタテインメントコンピューティングシンポジウム(EC2017)		当日可	東北大学
9月18日(月)	http://ec2017.entcomp.org/			電気通信研究所 本館
9月25日(月)	関西支部支部大会	6月16日(金)	2017年5月中旬より 論文募集受付開始	大阪大学 中之島センター
9月27日(水)～	平成29年度(第70回)電気・情報関係学会九州支部連合大会	7月10日(月)		琉球大学
9月28日(木)	http://www.jceee-kyushu.jp/			千原キャンパス
9月29日(金)	連続セミナー2017 第3回「人工知能技術(応用編) ～社会実装の取り組みと課題～」		定員になり次第	日本大学/大阪大学 中之島センター
10月3日(火)～	The 10th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking			富山国際会議場
10月5日(木)	http://www.icmu.org/icmu2017/			
10月17日(火)	連続セミナー2017 第4回「ディープラーニングの活用と基盤」		定員になり次第	日本大学/大阪大学 中之島センター
10月17日(火)	http://www.ipsj.or.jp/event/seminar/2017/index.html			
10月23日(月)～	コンピュータセキュリティシンポジウム2017(CSS2017)			山形国際ホテル (山形市)
10月25日(水)				
11月10日(金)	連続セミナー2017 第5回「メディアアートの今:「それはメディア アートではない」でなく「それもメディアアートである」という時代へ」		定員になり次第	化学会館/大阪大学 中之島センター
11月10日(金)	http://www.ipsj.or.jp/event/seminar/2017/index.html			
12月11日(月)	連続セミナー2017 第6回「AR/VRの新展開」		定員になり次第	化学会館/大阪大学 中之島センター
12月11日(月)	http://www.ipsj.or.jp/event/seminar/2017/index.html			



Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 更新情報

[トピックス]

- 5月24日 2017年度定時総会にてAL-1の展示を行います
- 5月15日 FIT2017 聴講予約申込のご案内
- 5月15日 FIT2017 講演申込の受付を5月22日まで延長しました
- 5月15日 人材募集情報 (Vol.58 No.5)
- 5月15日 会誌「情報処理」Web カタログ (Vol.58 No.5)
- 5月1日 2017年度定時総会の開催について
- 4月22日 情報処理学会創立記念日に寄せて

人材募集 (有料会告)



申込方法：任意の用紙に件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書に記載する「宛名」、Web掲載の有無などを記載し、掲載希望原稿〔募集職種、募集人員、(所属)、専門分野、(担当科目)、応募資格、着任時期、提出書類、応募締切、送付先、照会先〕を添えて下記の申込先へ、E-mail、Fax または郵送にてお申し込みください。
*都合により編集させていただく場合がありますので、ご了承ください。

申込期限：毎月15日を締切日とし翌月号(15日発行)に掲載します。

掲載料金：国公立教育機関、国公立研究機関 税抜 20,000円(税込 21,600円)
賛助会員(企業) 税抜 30,000円(税込 32,400円)
賛助会員以外の企業 税抜 50,000円(税込 54,000円)
*本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り、追加料金 税抜 4,000円(税込 4,320円)で同一内容を本会 Web ページに掲載できます。

申込先：情報処理学会 会誌編集部門(有料会告係) E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375
*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。

*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと

■地方独立行政法人鳥取県産業技術センター

募集人員 〔情報工学〕 1名程度
機械学習、ソフトウェア、情報通信、センシング、IoT関連技術等を活用した研究開発や企業からの技術相談、機器利用、依頼試験、人材育成への対応など県内企業に対する技術支援業務を行います

〔農芸化学(食品科学)〕 1名程度
農畜水産物加工品の原料素材から製品まで一連の品質向上および新たな高品質化技術、高付加価値製品の研究開発や企業からの技術相談、機器利用、依頼試験、人材育成への対応など県内企業に対する技術支援業務を行います

〔応用生物化学〕 1名程度
県内企業の健康機能性を重視した製品開発、研究開発や企業からの技術相談、機器利用、依頼試験、人材育成への対応など県内企業に対する技術支援業務を行います

応募資格 1967年4月2日以降に生まれた方。次のいずれかの資格が必要です
①大学もしくは短期大学・高専を卒業した方または2018年3月31日までに卒業見込みの方
②地方独立行政法人鳥取県産業技術センターが上記①と同等の資格があると認める方

採用時期 2018年4月1日(予定)
*2018年4月1日より前に勤務が可能な方(農芸化学(食品科学)分野および応用生物化学分野の方に限る)については、2017年9月1日以降採用する場合があります

応募受付期間 2017年5月11日～6月19日(17時15分必着)

送付先 〒689-1112 鳥取県鳥取市若葉台南7-1-1 地方独立行政法人鳥取県産業技術センター 総務部総務室
受験申込書に必要な事項を記載して、郵送または持参してください
様式は、その他の欄に記載のWebページからダウンロードしてください

照会先 不明な点については、次の担当までご連絡ください
総務部総務室 寺谷 E-mail: tsgcsoumu@pref.tottori.lg.jp Tel(0857)38-6200(代表) Fax(0857)38-6210

その他 詳細は鳥取県産業技術センターのWebページ(<https://www.tiit.or.jp/>)で確認してください

■早稲田大学先進理工学部電気・情報生命工学科

募集人員 教授、准教授または専任講師 1名

所属 早稲田大学理工学術院(先進理工学部電気・情報生命工学科、先進理工学研究科電気・情報生命専攻)

専門分野 電気エネルギー分野

担当科目 回路理論、電磁気学、電気エネルギー分野に関連する専門科目、理工学基礎実験や電気・情報生命工学実験の一部
*学科Webページの教育システム(カリキュラム)：<http://www.eb.waseda.ac.jp/top/applicants/educationalsystem/index.html>

応募資格 (1)博士の学位を有する方、または着任までに取得確実な方
(2)独立して研究室を運営し、学生の指導と研究活動を活発に行える方
(3)学科、専攻等の管理運営(アドミニストレーション)に積極的に携われる方

着任時期 2018年4月以降できるだけ早い時期

提出書類 下記Webページをご覧ください

応募締切 2017年8月4日(必着)

照会先 早稲田大学先進理工学部電気・情報生命工学科主任 渡邊 亮
E-mail: office@eb.waseda.ac.jp Tel(03)5286-3006 Fax(03)5286-3487 学科Webページ：<http://www.eb.waseda.ac.jp/>

その他 本公募に関する詳細はWebページ(http://www.eb.waseda.ac.jp/top/news/20170309_recruit.html)をご覧ください

■群馬工業高等専門学校電子情報工学科（情報工学分野）

募集人員 助教 1名
 所属（専門分野） 電子情報工学科（情報工学）
 担当科目 電子情報工学科における電子情報関係科目、工学実験、卒業研究指導および専攻科生産システム工学実験等
 応募資格 下記の条件に該当する方
 ①採用時において博士の学位を有すること ②教育・研究・学生指導および各校務に熱意を持って当たれる方
 ③科研費等外部研究資金獲得に意欲のある方 ④地域の産官学との共同研究や出前授業など地域貢献に熱意のある方
 着任時期 2017年10月1日
 応募締切 2017年8月9日（17時必着）
 その他 提出書類、書類の送付先、問合せなど公募に関する詳細はWebページ（<http://www.gunma-ct.ac.jp/gakko/13.htm>）を参照のこと

■東京情報大学総合情報学部総合情報学科

募集人員 准教授，または助教 各専門分野それぞれ1名
 専門分野 (1)情報セキュリティ，(2)データサイエンスのいずれかに該当すること
 応募資格 博士の学位を有する方で，情報科学分野全般の知識を有し，情報セキュリティ分野またはデータサイエンスにかかわる研究実績を持つ方
 着任時期 2018年4月1日
 応募締切 2017年9月29日（必着）
 照会先 (1)情報セキュリティ分野：東京情報大学総合情報学部総合情報学科情報システム学系長 永井保夫 E-mail: nagai@rsch.tuis.ac.jp
 (2)データサイエンス分野：東京情報大学総合情報学部総合情報学科数理情報学系長 三宅修平 E-mail: miyake@rsch.tuis.ac.jp
 その他 提出書類，担当科目等の詳細はWebページ（<http://www.tuis.ac.jp/university/public-ad/>）をご確認ください





FIT2017 第16回情報科学技術フォーラム

聴講参加・懇親会参加並びに講演論文集 事前予約申込のご案内

FIT2017 Web サイト：<http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2017/>

有料会費

情報処理学会と電子情報通信学会(情報・システムサイエンス、ヒューマンコミュニケーショングループ)とは2002年から合同で毎年秋季にFIT(Forum on Information Technology)を開催しており、2017年9月には第16回目を東京大学で開催いたします。

つきましては、聴講参加、懇親会参加並びに講演論文集、DVD-ROMの事前予約申込の御案内をいたします。皆様、奮ってお申込み下さい。

聴講参加費は、当日参加よりも事前予約の方がお得になっております。また、講演論文集、DVD-ROMは、FIT開催中にも会場販売を行います。残部のある限りということになりますので、確実にご入会いただくには期限内のお申込みをお勧めいたします。

会 期：2017年9月12日(火)～14日(木)

会 場：東京大学 本郷キャンパス(東京都文京区本郷7-3-1)

交 通：本郷三丁目駅(地下鉄丸の内線)徒歩8分/地下鉄大塚線(徒歩6分)。

湯島駅又は根津駅(地下鉄千代田線)徒歩8分。

東大前駅(地下鉄南北線)徒歩1分。春日駅(地下鉄三田線)徒歩10分。

■開催イベント企画[予定](詳細は逐次FIT2017Webサイトに掲載致します)

[招待講演企画・表彰式]

◎船井業績賞受賞記念講演 ◆聴講無料◆

13日 14:00～15:15 第1イベント会場(2号館213号講義室)

「Computer Vision分野における世界的研究業績と人材育成」

池内克史氏(東京大学名誉教授、マイクロソフトリサーチアジア首席研究員)

◎FIT学術賞表彰式

13日 13:00～13:50 第1イベント会場(2号館213号講義室)

[イベント企画]※タイトルや日時は変更の可能性があります

12日 09:30～12:00 デジタルゲリマンダーの脅威～ネットとAIから民主主義は守れるか～

09:30～12:00 ◆聴講無料◆ 東大・情報理工研究100連発～電子情報学専攻編～(市民公開講座)

09:30～12:00 データ研磨によるビッグデータからの高精度クラスタ発見とその応用

13:00～15:00 画像・映像のプライバシー・インベーション検討WGからの報告・提言

13:00～15:00 ◆聴講無料◆ 東大・情報理工研究100連発～知能機械情報学専攻+コンピュータ科学専攻編～(市民公開講座)

13:00～15:00 外部コメンテーターによる公開編集委員会～会誌のイケてる、イケてない所をメッタ切り!～

15:30～17:30 文部科学省 大学入学者選抜改革推進委託事業 情報学的アプローチによる「情報科」大学入学者選抜における評価手法の研究開発 中間報告

15:30～17:30 オープンデータ活用の最前線-デジタルプラクティスライブ-働き方改革のプラクティス: Joy, WorkPlace with すいすい読書会

13日 09:30～12:00 安全保障と社会を守るサイバーワールド

09:00～12:00 デジタルとアナログの融合-ログの先に見える未来-

13:00～13:50 FIT学術賞表彰式

14:00～15:15 船井業績賞受賞記念講演

15:30～17:30 ◆聴講無料◆ IEICE100周年記念イベント「人工知能は人間の幸福度を測ることができるか?～主観的QoL計測におけるパターン認識・メディア理解技術の可能性を探る～」

15:30～17:30 食の情報処理～これまでの10年、これからの10年～

15:30～17:30 大学教育とラーニングアナリティクス基盤

14日 09:30～12:00 ◆聴講無料◆ IEICE100周年記念イベント「IEEE、電子情報通信学会、情報処理学会の将来を探る」

09:30～12:00 インターネットは心理学研究にFITするか?

09:30～12:00 機械学習と量子物理学の交差点

13:00～16:00 「ロボットは東大に入れるか」大学入試自動解答の課題と今後

13:00～16:00 不動産テック～不動産×AIが拓く不動産の未来～

13:00～16:00 学生対抗!機械は人を笑わせられるか?

■聴講参加費(税込)

参加区分	事前予約(7/10まで)	当日
会 員	10,000円	12,000円
非会員	20,000円	24,000円
学 生	無料	無料

※会員、非会員の聴講参加費にはプログラム・参加章・DVD-ROM含。

※学生聴講参加はプログラム・参加章。

※会員、非会員、学生の参加区分の区別は以下の通りです。

会 員：情報処理学会、電子情報通信学会、電気学会、照明学会、映像情報メディア学会及び情報処理学会と協定を締結した海外の学会(ACM、IEEE、IEEE/CS、KIISE、CSI)または電子情報通信学会と協定を締結した海外の学会(IEIE、APSIPA、ECIT、IEEE/ComSoc、KICS、VDE/ITG、KIEES、CIC、IEEE/PHO、IEEE/MTT-S、IEEE/CS、KIISE)の個人会員に限ります。

非会員：上記の学会会員以外で学生以外の方。

学 生：会員/非会員を問わず無料(DVD-ROMは付きません)。

■懇親会(予定)参加希望の方は事前予約をお願いします

開催日時：9月13日(水)18:30～20:30

会 場：医学部研究棟13階レストラン カポベリカーノ

参加費(税込)：一般(正会員・非会員) 5,000円、学生 2,000円

一般講演座長 3,000円

■冊子講演論文集・DVD-ROM販売価格(税込)

申込種別	個人購入価格	法人購入価格
講演論文集セット	60,000円	60,000円
講演論文集分冊	13,000円/冊	16,000円/冊
講演論文集DVD-ROM	9,000円	56,000円

※学生の方は、会場にてDVD-ROM学割会場販売価格4,000円

※講演論文集セットは冊子講演論文集全分冊(カバー付き)、DVD-ROM

※講演論文集の掲載分野(分冊構成)[予定]

第1分冊：モデル・アルゴリズム・プログラミング、ソフトウェア、ハードウェア・アーキテクチャ

第2分冊：データベース、自然言語・音声・音楽、人工知能・ゲーム、生体情報科学

第3分冊：画像認識・メディア理解、グラフィクス・画像、ヒューマンコミュニケーション&インタラクション、教育工学・福祉工学・マルチメディア応用

第4分冊：ネットワーク・セキュリティ、ユビキタス・モバイルコンピューティング、教育・人文科学、情報システム

DVD-ROM：上記全論文とプログラムを収録(著者、所属、キーワード索引付)

※講演論文集セットまたは分冊の受取方法

事前予約申込フォームの「会場受取り」または「FIT終了後郵送(10月上旬)」のいずれかを選択して下さい。「会場受取り」にされた方には、申込受付完了メールに引換券(PDF)が添付されておりますので、ご来場の際は引換券をプリントアウトしてご持参いただき、総受付にお渡し下さい。

■聴講参加・懇親会参加・講演論文集の事前予約申込・送金方法

申込締切：2017年7月10日(月)

申込方法：FIT2017 Web サイトからお申込み下さい。

送金方法：申込締切後、見積・納品・請求書を電子メールにてお送りしますので指定の口座へ、ご案内の期日までに振込をお願い致します。

※聴講参加または懇親会参加申込を頂いた方には、申込受付完了メールに参加章・DVD-ROM引換券(PDF)が添付されておりますので、御来場の際は引換券をプリントアウトして御持参頂き、総受付にお渡し下さい。

■次年度のFIT2018開催

2018年9月19日(水)～21日(金) 福岡工業大学(予定)

FIT2017 検索



■問い合わせ (FIT2017 幹事学会)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F

一般社団法人情報処理学会 事業部門 Tel. 03-3518-8373 Fax. 03-3518-8375 E-mail: fit2017@ipsj.or.jp



論文誌ジャーナル掲載論文リスト Vol.58 No.6 (June 2017)



【特集：ネットワーク科学】

- 特集「ネットワーク科学」の編集にあたって 林 幸雄
- スケールフリーネットワーク上の拡張 SIS モデル 守田 智
- ネットワークの応答信号に基づく構造解析法の提案 佐藤進也
- 人口分布に基づく道路網状土台上の頑健かつ効率的な成長型ネットワークモデル 松久保潤 他
- ネットワーク上での特徴量分布を考慮したアノテーション付与法 伏見卓恭 他
- Clustering and Visualizing Functionally Similar Regions in Large-Scale Spatial Networks Takayasu Fushimi 他
- メトリック空間における複数カテゴリに属するハイブリッドオブジェクト抽出法の提案 伏見卓恭 他
- 任意のネットワークを用いた協調達成条件の分析 白井翔平 他
- ヴォーカルマイノリティ現象を説明する意見発信モデルの提案 鳥海不二夫 他
- バースト現象におけるトピック分析 鳥海不二夫 他

【一般論文】

- Prior-based Binary Masking Discriminative Methods for Reverberant and Noisy Speech Recognition Using Distant Stereo Microphones Yuuki Tachioka 他
- Assistive Typing Application for Older Adults Based on Input Stumble Detection Toshiyuki Hagiya 他

*：推薦論文 Recommended Paper

†：テクニカルノート Technical Note



論文誌トランザクション掲載論文リスト (June 2017)

【論文誌 教育とコンピュータ Vol.3 No.2】

- 大学教育におけるラーニングアナリティクスのための情報基盤システムの構築 緒方広明 他
- 情報セキュリティ教育教材の改善検討～自由記述アンケートの分析から～ 天野由貴 他
- Intuitive Analysis by Visualizing Context Relevant E-learning Data Pitoyo Hartono 他
- CheCoPro: 協調的知識創造を指向した初学者の協調プログラミング支援システム 加藤優哉 他
- 高等学校情報科における教科担任の現状 中山泰一 他
- 教師の過去の PC 操作を授業中に参照できる画面遷移参照ツールの提案と開発 坂東宏和 他



【論文誌 プログラミング Vol.10 No.3】

- RL78 マイコン向けレジスタ割付におけるロードの最適化 千葉雄司 他
- Speeding up Exact Real Arithmetic on Fast Binary Cauchy Sequences by using Memoization based on Quantized Precision Hideyuki Kawabata



【論文誌 データベース Vol.10 No.2】

- Volumetric Spiral Scan Order による三次元考古遺物モデルの類似検索 濱田和真 他
- 位置・ソーシャル関係・キーワードに基づく Top-k データモニタリング 西尾俊哉 他
- Event Identification for Explicit and Implicit References on Microblogs Jun-Li Lu 他
- RDMA の適用による RAMP トランザクション処理の高速化 村田直郁 他
- ジオタグ付きツイートをを用いた交通路の抽出法 谷 直樹 他
- 顧客コメントからのプロフィール情報の抽出および製品・サービス情報の構造化を利用した商品推薦システム 竹内広宜 他



IPSJ メールニュースへ広告を出しませんか？

広告を IPSJ メールニュースで配信しています。本会会員が主な読者なので、ターゲットを絞った広告に最適です。

- 配 信 数：約 29,000 通（原則毎週月曜日配信）
- 読 者 層：本会会員および非会員
- 形 式：テキストのみ。等幅半角 70 字× 5 行。URL を入れてください。
- 掲載位置：ヘッダ（目次の上）
フッタ（本文の最下行）
- 掲 載 料：ヘッダ：1 回 50,000 円（税込 54,000 円）※ 3 社限定
フッタ：1 回 20,000 円（税込 21,600 円）
※それぞれ行数超過については別途相談
- 申 込 先：[広告代理店]
アドコム・メディア（株）E-mail: sales@adcom-media.co.jp
〒 169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27 Tel(03)3367-0571 Fax(03)3368-1519
または、情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp Tel(03)3518-8371
- 申込締切：毎週水曜日締切、翌週月曜日配信となります。
- 見 本：

— [広告] —
■■■■ ○○セミナー ■■■■
開催日時：1 月 10 日（火）・11 日（水）・12 日（木）13：00～17：00
会場：○○コンベンションセンター
会費：情報処理学会会員の方には割引があります。
詳細はこちらをご覧ください：<http://www.....com/>
— [広告] —

次号（8月号）予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」ソフトウェア工学の最前線～ソフトウェアが社会のすべてを定義する時代～

ソフトウェア工学の過去、現在、未来／日本におけるソフトウェア工学研究の原点／日本の産業界におけるソフトウェア工学の役割／世界を目指したソフトウェア工学研究／モノからコトへの要求工学／SDx時代のソフトウェアモデリング／不確かさを考慮したソフトウェア・テストおよび形式検証／ビッグデータ時代のソフトウェア・アナリティクス／アジリティを追求したソフトウェア開発／IoT時代の環境適応型ソフトウェア／自動プログラミング、自動バグ修正への夢

報告：2016年度論文賞の受賞論文紹介／2016年度喜安記念業績賞紹介／2016年度マイクロソフト情報学研究賞

教育コーナー：べた語義

連 載：IT 日和／会誌編集委員会女子部

コラム：巻頭コラム／シニアコラム：IT 好き放題

会議レポート：インタラクション 2017—明治大学 中野キャンパスにて最大の規模で開催—／Programming 2017 会議報告／
第 79 回全国大会～オープン・イノベーションと情報処理～

CONTENTS

Preface

- 558 **Bring Japanese Society into the 21st Century**
Takeshi NATSUNO (Keio Univ.)
- 560 **Designing the Future with Society**
Shojiro NISHIO (Osaka Univ.)

Special Manga

- 562 **After the Release of IPSJ LINE Stickers**
Illustration by Yuka YAMAMOTO

Special Article

- 564 **We don't wanna Cry : Ransomware "WannaCry" Uproar**
Akira KANAOKA (Toho Univ.)
- 566 **Does Mastodon Change the Economy of Scale on Web?**
Masanori KUSUNOKI (International Univ. of Japan)

Special Features

Toward Informatics for Human Movements

- 568 **0. Foreword**
Itsuki NODA (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST))
- 570 **1. Cellular Automata Model for Pedestrian Dynamics**
Daichi YANAGISAWA and Katsuhiko NISHINARI (The Univ. of Tokyo)
- 574 **2. Disaster-Resistant City Planning and Multi-Agent Simulation**
Toshiyuki ASANO (Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology (JAMSTEC))
- 578 **3. Progress in Utilizing Crowd Flow Simulation from Architectural Design to Operation - Case Studies from Large Scale Events, Disaster Management, Crime Prevention and Operation**
Masako INOUE, Hideto TANAKA and Yoshinobu ADACHI (Intelligent Systems Laboratory, SECOM Co., Ltd.)
- 582 **4. Perspective on Pedestrian Simulation in Disaster Prevention**
Fumihiro SAKAHIRA and Yasuhiro KITAKAMI (KOZO KEIKAKU Engineering Inc.)
- 586 **5. Making an Agent-Based Simulator from Actual Customer Behavioral Data**
Takao TERANO (Tokyo Institute of Technology)
- 590 **6. Social System Design by Exhaustive Simulation**
Itsuki NODA (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)) and Tomohisa YAMASHITA (Hokkaido Univ.)
- 594 **7. People Measurement in a Crowded Environment - Toward Fusion with Simulation -**
Masaki ONISHI (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST))

Special Features

Why Does It Matter Whether or Not AI is able to Pass University Entrance Examinations?

- 598 **0. Foreword**
Noriko ARAI (National Institute of Informatics)
- 600 **1. Technical Challenges Revealed by Solving English Problems**
Ryuichiro HIGASHINAKA (NTT Communication Science Labs.)
- 600 **Answering Single and Multi-sentence Problems in National Center Test for University Admissions**
Hiroaki SUGIYAMA (NTT Communication Science Labs.), Koji DOHSAKA (Akita Prefectural Univ.), Yasuhiro MINAMI (The Univ. of Electro-Communications) and Hiromi NARIMATSU (NTT Communication Science Labs.)
- 602 **Answering Reading Comprehension Problems in National Center Test for University Admissions**
Hideki ISOZAKI, Genichiro KIKUI (Okayama Prefectural Univ), Hirotoishi TAIRA (Osaka Institute of Technology), and Junji

- 603 **2. The University Entrance Exam of "Contemporary Japanese Language" wasn't Solved by Computer?**
Satoshi SATO (Nagoya Univ.)
- 604 **3. Japanese Classics Question Solving based on Machine Translation and Surface-based Similarity**
Hikaru YOKONO (Fujitsu Labs. Ltd.)
- 605 **4. An Approach to Automated Mechanics Problem Solving**
Hidenao IWANE, Hikaru YOKONO (Fujitsu Labs. Ltd.), Takashi IWAGAYA (Cybernet Systems Co., Ltd.) and Takeo IGARASHI (The Univ. of Tokyo)
- 607 **5. Automatically Solving Math Problems by Deep Language Processing and Efficient Computer Algebra Algorithms**
Takuya MATSUZAKI (Nagoya Univ.) and Hidenao IWANE (Fujitsu Labs. Ltd.)
- 609 **6. World History : Answering Multiple-choice Questions by Combination of Natural Language Processing Modules**
Chikara HOSHINO, Hiroshi MIYASHITA, Ai ISHII and Mio KOBAYASHI (Nihon Unisys, Ltd.)
- 611 **7. World History : Challenge to Essay and Term Questions in Todai Format**
Kotaro SAKAMOTO (Yokohama National Univ. / National Institute of Informatics), Takuma TAKADA (Nagoya Univ.) and Madoka ISHIOROSHI (National Institute of Informatics)
- 613 **8. Why were High School Students Outperformed by "Artificial Unintelligence" ?**
Noriko ARAI (National Institute of Informatics) and Koken OZAKI (Univ. of Tsukuba)
- 616 **Solving Various. Yes/No Questions Automatically : From History Subjects to Medical and Legal Problems**
Yoshinobu KANO (Shizuoka Univ.)

Article

- 620 **Optical Clocks Aiming the Redefinition of the Second**
Tetsuya IDO (National Institute of Information and Communications Technology)

Senior Column : Messages on Favorite IT

- 619 **Technological Gap between Japan and United States in the 1960's**
Yoshio OYANAGI (Kobe Univ.)

"Peta-gogy" for Future

- 625 **From Analog to Digital**
Keisuke NAKAGAWA (The Univ. of Electro-Communications)
- 626 **Revision of Course of Study and Common Subject Information Department**
Toshiharu KANO (National Institute for Educational Policy Research)
- 630 **The E-book Distribution Service has been Introduced in the Nursing School**
Masaaki TANAKA (Humanitec Junior College)

- 634 **Biblio Talk**
- 636 **Conference Report**
- 638 **Conference Report**
- 639 **The Women's Club of the Editorial Committee of the IPSJ Magazine**

ご意見をお寄せください！

【7月10日頃までにお出してください】

宛先 一般社団法人 情報処理学会 モニタ係（下記のいずれからも送付できます）
http://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html Fax(03)3518-8375 E-mail: editj@ipsj.or.jp
(E-mail で送信される場合は、10-1-a のようにコードでお答えください)
※ご意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いいたします。
http://www.ipsj.or.jp/privacypolicy.html

[コード]

- (1) ご氏名
- (2) ご所属 Tel. () -
- (3) E-mail:
- (4) 業種： (a) 企業（サービス業） (b) 企業（製造業） (c) 研究機関 (d) 教育機関（小・中・高校・高専・大学・大学院など）
(e) 学生 (f) 学生（ジュニア会員） (g) その他…………… 4- []
- (5) 職種： (a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務
(f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教職員（小・中・高校・高専・大学・大学院など）
(h) 学生 (i) 学生（ジュニア会員） (j) その他…………… 5- []
- (6) 年齢： (a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上…………… 6- []
- (7) 性別： (a) 男性 (b) 女性…………… 7- []
- (8-1) あなたはモニタですか？： (a) はい (b) いいえ…………… 8-1- []
- (8-2) あなたのご意見は「会員の広場」（会誌および Web）に掲載される場合があります。その場合：
(a) 実名可（氏名のみ掲載） (b) 匿名希望 (c) 掲載を希望しない…………… 8-2- []
- (9) どちらの媒体で記事をお読みになりましたか？
(a) 冊子版 (b) 情報学広場（電子図書館） (c) App Store (d) fujisan (e) その他…………… 9- []
- (10) 今月号（2017年7月号）の記事は良かったですか。下記の記事すべてについて評価をご回答ください。
[a…大変良い b…良い c…普通、どちらとも言えない d…悪い e…読んでいない]
- 巻頭コラム：社会システムを 21 世紀にアップデートせよ…………… 10-1- []
- 巻頭言：社会と共に未来をデザインする学会を目指して…………… 10-2- []
- 特別漫画：情報処理学会公式 LINE スタンプリリース、その後…………… 10-3- []
- 特別解説：私たちは泣きたくはない…………… 10-4- []
- 特別解説：マストドンは規模の経済を競う Web を変えるのか…………… 10-5- []
- 特集：人流シミュレーション
1. 群集運動のセルオートマトンモデル…………… 10-6- []
 2. 災害に強い街づくりとマルチエージェント・シミュレーション…………… 10-7- []
 3. 設計から運用までを支える人流シミュレーション活用の現状と展望…………… 10-8- []
 4. 防災分野における人流シミュレーションの必要性、課題、展望…………… 10-9- []
 5. 実データから顧客行動シミュレーションができるまで…………… 10-10- []
 6. 網羅的シミュレーションを用いた社会システム設計支援…………… 10-11- []
 7. 混雑環境における群衆計測…………… 10-12- []
- 小特集：「ロボットは東大に入れるか」という^{ひら}企て
1. 英語問題への挑戦から分かった技術的課題…………… 10-13- []
 2. 「国語」現代文は解けなかったのか？…………… 10-14- []
 3. 機械翻訳と表層による類似度計算を用いた古文問題解答…………… 10-15- []
 4. 力学問題の自動解答への取り組み…………… 10-16- []
 5. 深い言語処理と高速な数式処理の接合による数学問題の自動解答…………… 10-17- []
 6. 世界史：自然言語処理モジュールの組合せによる、マーク式問題の自動解答…………… 10-18- []
 7. 世界史：東大型 論述問題と語句記述問題への挑戦…………… 10-19- []
 8. なぜ高校生は「意味を理解しない AI」に敗れたか？…………… 10-20- []
- 番外編. さまざまな正誤問題の自動解答…………… 10-21- []
- IT 好き放題：1960 年代の日米技術格差…………… 10-22- []
- 解説：光技術を利用した時計で目指す秒の再定義…………… 10-23- []
- べた語義：アナログからデジタルへ…………… 10-24- []
- べた語義：学習指導要領の改訂と共通教科情報科…………… 10-25- []
- べた語義：看護師養成課程で導入が始まっている電子書籍配信サービス…………… 10-26- []
- ピブリオ・トーク：『アポロ 13』に学ぶ IT サービスマネジメント…………… 10-27- []
- 会議レポート：データ工学分野の巨大な合宿形式会議 DEIM Forum 2017…………… 10-28- []
- 会議レポート：社会システムと情報技術研究ウィーク（WSSIT17）開催報告…………… 10-29- []
- 会誌編集委員会女子部…………… 10-30- []
- 連載漫画：IT 日和…………… 10-31- []

〔11〕 本号で最も良かった記事は何ですか？ 上記〔10〕の設問の記事番号から1つだけ選び（例：10-8の記事の場合は「8」と記入）、その理由をご回答ください。上記に掲載されていない記事の場合はタイトルを直接ご記入ください。

- 〔11-1〕 良かった記事 11-1- []
 〔11-2〕 この記事に対する貴方の立場：a) 専門家 b) 非専門家 11-2- []
 〔11-3〕 選んだ理由（下記から、いくつでも選択可）..... 11-3- []
 a) 技術・研究動向がよく分かった b) 知的興味をかきたてられた c) 新たな知識を得ることができた d) 内容が平易で理解しやすかった
 e) その他（具体的に下記にご記入ください）

〔12〕 本号で最も良くなかった記事は何ですか？ 上記〔10〕の設問の記事番号から1つだけ選び（例：10-8の記事の場合は「8」と記入）、その理由をご回答ください。上記に掲載されていない記事の場合はタイトルを直接ご記入ください。

- 〔12-1〕 良くなかった記事 12-1- []
 〔12-2〕 この記事に対する貴方の立場：a) 専門家 b) 非専門家 12-2- []
 〔12-3〕 選んだ理由（下記から、いくつでも選択可）..... 12-3- []
 a) 記事の内容に誤りがあった b) ありきたりの内容だった c) 記事が難しすぎた d) 何を言いたいのか分からなかった e) 宣伝の意図が強すぎる
 f) テーマに興味を持てなかった g) その他（下記に具体的に記入ください）

〔13〕 今月の特集に対する貴方の立場を教えてください。

- 〔13-1〕 人流シミュレーション：a) 専門家 b) 非専門家 13-1- []
 〔13-2〕 「ロボットは東大に入れるか」という企て：a) 専門家 b) 非専門家 13-2- []

〔14〕 設問〔10〕で読んでいないと答えた記事について、その理由を教えてください。

〔15〕 会誌に対するご意見や感想、著者への質問、巻頭コラムに登場してほしい人物、今後取り上げてほしいテーマなどありましたらご記入ください。（スペースが足りない場合はお手数ですが別紙を追加してください）

■ 各種問合せ先 ■

一般社団法人 情報処理学会（本部） ※支部所在地等詳細はリンクされている各支部ページでご参照ください。
 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F Fax(03)3518-8375 <http://www.ipsj.or.jp/>

担当	E-mail	Tel(ダイヤルイン)	取り扱い内容
■ 会員サービス部門			
会 員	mem@ipsj.or.jp	03-3518-8370	入会、会費、変更連絡、退会、在会証明、会員証、会誌配布、会員特典、会費等口座振替、海外からの送金、賛助会員、電子図書館
■ 会誌編集部門			
会誌編集	editj@ipsj.or.jp	03-3518-8371	会誌「情報処理」の掲載内容、広告掲載、出版、コンピュータ博物館（情報処理技術遺産）
	copyright@ipsj.or.jp		転載許可、著作権
デジタルプラクティス	editdp@ipsj.or.jp		デジタルプラクティス（DP）の編集・査読、DP レポート
図 書	tosho@ipsj.or.jp	03-3518-8374	出版物購入
■ 研究部門			
論文誌	editt@ipsj.or.jp	03-3518-8372	論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション）の編集・査読
調査研究/ 国際/教育	sig@ipsj.or.jp		研究会登録、研究発表会、研究グループ、シンポジウム、国際会議、IFIP委員会、情報処理教育委員会、ア krediyteshon対応
■ 事業部門			
事 業	jigyo@ipsj.or.jp	03-3518-8373	全国大会、FIT、プログラミングコンテスト、プログラミング・シンポジウム、協賛・後援
技術応用	event@ipsj.or.jp		連続 세미나、短期セミナー、IT フォーラム、ソフトウェアアジャパン、その他講習会、認定情報技術者制度
■ 管理部門			
総務/庶務	soumu@ipsj.or.jp	03-3518-8374	総会・理事会、支部、選挙、総務系選奨、関連団体、アドバイザーボード
経 理	keiri@ipsj.or.jp		出納、送金連絡
システム企画	sys@ipsj.or.jp		システム企画、セキュリティ、電子化委員会、電子図書館、IPJSJ メールニュース
■ 情報規格調査会			
規格部門	問合せフォーム https://www.itscj.ipsj.or.jp/contact/index.html		ISO/IEC JTC 1での情報技術の標準化業務 〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館308-3 Tel (03)3431-2808 Fax (03)3431-6493 http://www.itscj.ipsj.or.jp/

大学に入る前までは主に阪神間で育った私は、大阪の人の歩き方・速さに慣れていて、それが大学で京都に住むようになり、その歩き方の違い・遅さに最初はかなり戸惑った。隣り合っているように見えて、こんなにも人の歩き方が違っているのに、妙に感心した記憶がある。一方、関東に出てきて、都市部での人の歩き方が非常に画一的なのに驚いた。東京の過密さの中で人の移動を機能させるためには、それくらい揃う必要があるのだろう。確かにここまで揃ってれば、移動という面では高機能な状態といえる。一方で、ちょっとしたこと、たとえばラッシュのターミナル駅で外国人観光客が荷物を持ってキョロキョロするだけで、その影響は結構広範囲に広がっている。つまりシステム的には結構脆弱である。「編集にあたって」にも書いたが、世界的に見て都市化・集中化

は進むことはあれ、解消する気配は見せない。ならば、その先陣を切っている日本・東京において、集中しても大丈夫な移動空間をつくり上げることができれば、その波及効果は大きいだろう。人流のセンシング・シミュレーション研究もそういうところで生きてくるであろう。

編集作業も、もしかしたら徐々に過密になり、渋滞のような状態を引き起こしているのではなかろうか？ 今回の特集についても、年度末というただでさえ忙しい時期に、さらに本特集の締切を抱えられてしまった各著者には大変申し訳ない。そういう意味で、学会誌編集シミュレータの研究についても、そろそろ特集の企画を立てることを考えたほうがいいのかもかもしれない。

(野田五十樹／本特集ゲストエディタ)

「記号列を意味にどうマップすべきか」に関する数学の理論は、20世紀半ばから残念ながら目ぼしい進展がない。「意味とは何か」を記述するための数学の言葉が不十分なのに、数学だけでできているコンピュータが突然意味を理解することはないだろう。

では、意味が分からないAIが知的作業を担う21世紀はどのような社会になるのか。まずは労働市場への影響をリアリティを持って市民に示そう、それが「ロボットは東大に入れるか」というプロジェクトを始めた動機だった。もちろん、意味を理解せずに「東大合格」はあり得ないだろう。その一方で、合格できる大学はあるに違いない。では、現在のAIの能力は、生身の高校三年生と比較したとき、どのあたりになるのだろうか？ AIの労働市場への影響を考えると、それが大学入試に挑む高校三年生の中央値そして平均を超えるかどうかの問題だと思った。まさか、MARCH・関関同立合格レベルに達するとは！それが5年間の挑戦を終えての感想である。

プロジェクトを開始して間もなく、AIブームが到来した。また、AIの労働市場への影響についての議論も始まった。シンギュラリティ予言なども出る中、プロジェクトは良い意味でも悪い意味でも社会的関心を集めたように思う。雑音が多い中、コツコツと課題に取り組み、いくつもの壁を突破しながら、事実に基づきエラーも含めてすべてを誠実に公にした研究者たちに心から感謝をしている。

ただ、東ロボプロジェクトを率いて1つ残念というか、参加した研究者に申し訳なかったことがある。プロジェクトタイトルがあまりにセンセーショナルだったために、研究者、特にAI周辺の研究者から予想外の反発を招いたことだった。その誤解が少しでも解けることを願って、本小特集の編集をお引き受けした。

それからもう1つ。東ロボで構築したセンター入試ベンチマークはぜひ今後も活用していただければと思う。汎用AIが登場した際には、もちろん全問正解することを期待している。

(新井紀子／本小特集ゲストエディタ)

読後のご意見をお送りください

本誌では、現在約160名の方々に毎号のモニタをお願いしておりますが、より多くの読者の皆さんからのご意見、ご提案をおうかがいし、誌面の充実に役立てていきたいと考えておりますので、毎号巻末に掲載しております所定の用紙またはWebページ (<http://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>) をお使いいただき、奮って事務局までお寄せください。

一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8371

広告のお申込み

■広告料金表

掲載場所	4色	2色	1色
表2	330,000円 (税込356,400円)	—	—
表3	275,000円 (税込297,000円)	—	—
表4	385,000円 (税込415,800円)	—	—
表2対向	300,000円 (税込324,000円)	—	—
表3対向	265,000円 (税込286,200円)	190,000円 (税込205,200円)	155,000円 (税込167,400円)
前付1頁	250,000円 (税込270,000円)	165,000円 (税込178,200円)	135,000円 (税込145,800円)
前付1/2頁	—	—	80,000円 (税込86,400円)
前付最終	—	—	148,000円 (税込159,840円)
目次前	—	—	148,000円 (税込159,840円)
差込 (A判70.5kg未満 1枚)	275,000円 (税込297,000円)		
差込 (A判70.5kg～86.5kg 1枚)	350,000円 (税込378,000円)		
同封 (A判 1枚)	350,000円 (税込378,000円)		

■「情報処理」

発行 一般社団法人 情報処理学会
 発行部数 20,000部
 体裁 A4判
 発行日 毎当月15日
 申込締切 前月10日
 原稿締切 前月20日
 広告原稿 完全版下データ
 原稿寸法 1頁 天地260mm×左右180mm
 1/2頁 天地125mm×左右180mm
 雑誌寸法 天地297mm×左右210mm

■問合せ・お申込み先

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27
 アドコム・メディア(株) (Tel/Fax/E-mailは下に記載)

*原稿制作が必要な場合には別途実費申し受けます。
 *同封のサイズ・割引の詳細についてはお問合せください。

掲載広告の資料請求

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、ご希望の会社名にチェック☑を入れ、送付希望先をご記入の上、Faxにて（またはE-mailにて必要事項を記入の上）アドコム・メディア(株)宛にご請求ください。

■「情報処理」58巻7号 掲載広告（五十音順）

- インタフェース 表2 講談社 目次前
 オージス総研 表2対向
 すべての会社を希望

■資料送付先

フリガナ
お名前 _____

勤務先 _____ 所属部署 _____

所在地 (〒 _____) _____

TEL (_____) _____ - _____ FAX (_____) _____

ご専門の分野 _____



お問合せ・お申込み・資料請求は

広告総代理店 **アドコム・メディア(株)**

Tel.03-3367-0571 Fax.03-3368-1519 E-mail: sales@adcom-media.co.jp



賛助会員のご紹介

本会をご支援いただいております賛助会員をご紹介します。

Web サイト (<http://www.ipsj.or.jp/annai/aboutipsj/sanjo.html>) 「賛助会員一覧」のページからも
各社へリンクサービスを行っておりますので、ぜひご覧ください。

照会先 情報処理学会 会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp Tel.(03)3518-8370

●●● 賛助会員 (20 ~ 50口)

HITACHI
Inspire the Next

(株) 日立製作所

FUJITSU

富士通 (株)

Orchestrating a brighter world

NEC

日本電気 (株)

MITSUBISHI ELECTRIC
Changes for the Better

三菱電機 (株)

CyberAgent.

(株) サイバーエージェント

IBM

日本アイ・ビー・エム (株)

●●● 賛助会員 (10 ~ 19口)

RECRUIT

(株) リクルートホールディングス

Google

グーグル (株)

docomo

(株) NTT ドコモ

TOSHIBA

(株) 東芝

NTT

日本電信電話 (株)

Microsoft

日本マイクロソフト (株)

●●● 賛助会員 (3 ~ 9口)

NTT DATA

NTT データ (株)

GREE

GREE (株)

Rakuten

楽天 (株)

JISA

情報サービス産業協会

TREND MICRO

トレンドマイクロ (株)

NTTコムウェア

NTT コムウェア (株)

NTTテクノクロス

NTT テクノクロス (株)

uejima

(株) うえじま企画

OKI

沖電気工業 (株)

SANBI

三美印刷 (株)

人と音楽の新しい関係をデザインする。

SONY

ソニー (株)

team Lab

チームラボ (株)

Panasonic

パナソニック (株)

FORUM 8
フォーラムエイト

(株) フォーラムエイト

レコチョク

(株) レコチョク

●●● 賛助会員 (2口)

KDDI
KDDI RED LABS

(株) KDDI 研究所

NEC
NECソリューションイノベータ

NEC ソリューション
イノベータ (株)

NTTAT

NTT アドバンステクノロジー (株)

SFC

三協印刷 (株)

JR
JRシステム

鉄道情報システム (株)

KCT

(株) ナレッジクリエーション
テクノロジー

放送技術研究所

日本放送協会
放送技術研究所

HITACHI
Inspire the Next
日立システムズ

(株) 日立システムズ

インテル (株)

【A～Z】

(株) AndTech
 (株) ATJC
 (株) ATR-Trek
 (株) CIJ
 (株) CIJネクスト
 (株) DTS インサイト
 freee (株)
 (株) FRONTEO
 GMOペパボ(株)
 (株) HBA
 JRCエンジニアリング(株)
 (株) JR東日本情報システム
 (株) JTBコーポレートセールス
 法人営業川崎支店
 (株) K&S
 (株) KDDI 研究所
 MHIエアロスペースシステムズ(株)
 NECソリューションイノベータ(株)
 技術統括部
 NECソリューションイノベータ(株)
 パブリック事業本部
 NECフィールディング(株)
 NTTアドバンステクノロジー(株)
 NTTコミュニケーションズ(株)
 NTTコムウェア(株)
 (株) NTT データ
 (株) NTT データ・アイ
 (株) NTT データ関西
 (株) NTT データ九州
 (株) NTT データ東海
 (株) NTT データ東北
 NTT テクノクロス(株)
 (株) NTT ドコモ
 (株) OKI ソフトウェア
 (株) PFU
 SCSK (株)
 TDC ソフトウェアエンジニアリング
 (株)
 TIS (株)
 (株) UNCOVER TRUTH
 (株) U-NEXT

【あ行】

アイアンドエルソフトウェア(株)
 (株) アイヴィス
 (株) アイ・エス・ビー
 (株) アイ・エル・シー
 アイシン・エイ・ダブリュ (株)
 アイシン精機(株)
 (株) アイズファクトリー
 アシアル(株)
 (株) アドバンス トラフィック シス
 テムズ
 (株) アドバンス・メディア
 アビームシステムズ(株)
 (株) アピリッツ
 (株) アルファシステムズ
 (株) いい生活

池上通信機(株)
 伊藤忠テクノソリューションズ(株)
 (株) インテック
 (株) インテリジェンス
 インテル(株)
 インフォサイエンス(株)
 (株) ヴァル研究所
 ヴィスコ・テクノロジーズ(株)
 (株) うえじま企画
 (株) エイ・ダブリュ・ソフトウェア
 (株) エイチチーム
 (株) 駅探
 (株) エクサ
 エクセルソフト(株)
 (株) エスケーエレクトロニクス
 エヌ・ディー・アール(株)
 (株) エルザジャパン
 オークマ(株)
 (株) 大塚商会
 (株) オーム社
 沖電気工業(株)
 (株) 小野仁
 オムロン(株)

【か行】

国立研究開発法人 科学技術振興
 機構
 (公財) 画像情報教育振興協会
 (学) 片柳学園日本工学院八王子
 専門学校
 関西テレビソフトウェア(株)
 (一財) 機械振興協会
 キヤノンITソリューションズ(株)
 共立出版(株)
 (株) 近代科学社
 グーグル(株)
 (株) クライム
 グリー (株)
 (株) グリッド
 (株) ぐるなび
 (株) コア 中四国カンパニー
 (株) 構造計画研究所
 国立国会図書館
 コニカミノルタ(株)

【さ行】

(株) サイバーエージェント
 サクサ(株)
 サクシード(株)
 三協印刷(株)
 三美印刷(株)
 三友工業(株)
 (株) シーエーシー
 システム・オートメーション(株)
 (株) ジャステック
 (株) ジャパンテクニカルソフトウェア
 (一社) 情報サービス産業協会
 (独) 情報処理推進機構
 新日鉄住金ソリューションズ(株)

(株) スタートトゥデイ
 住友電気工業(株)
 (株) セガゲームス
 (株) セカンドセレクション
 セコム(株)
 ソニー (株)
 (株) ソフトウェアコントロール
 (一財) ソフトウェア情報センター
 ソフトウェア特許情報センター
 ソフトバンク(株)

【た行】

(株) 中電シーティーアイ
 (一社) 中部産業連盟
 中部電力(株)
 通研電気工業(株)
 デジタルプロセス(株)
 鉄道情報システム(株)
 (公財) 鉄道総合技術研究所
 (公財) 電気通信普及財団
 (一社) 電子情報技術産業協会
 (株) 電盛社
 (株) デンソー
 (株) デンソー ITソリューションズ
 (株) デンソーアイティーラボラトリ
 (株) デンソークリエイト
 (一財) 電力中央研究所
 東海ソフト(株)
 東海旅客鉄道(株)
 東京電力ホールディングス(株)
 (株) 東芝
 東芝インフォメーションシステムズ
 (株)
 東芝システムテクノロジー (株)
 東芝情報システム(株)
 東芝ソリューション(株)
 東芝マイクロエレクトロニクス(株)
 東芝メディカルシステムズ(株)
 (株) 東和システム
 トーヨー企画(株)
 特許庁
 (株) トヨタコミュニケーションシ
 テム
 トヨタ自動車(株)
 (株) 豊田中央研究所
 (株) トヨタデジタルクルーズ
 トレンドマイクロ(株)
 (株) ドワンゴ

【な行】

(株) ナレッジクリエーションテクノ
 ロジー
 (株) ニコンシステム
 日鉄日立システムエンジニアリング
 (株)
 日本アルゴリズム(株)
 日本電気(株)
 (株) 日本電気特許技術情報セン
 ター

日本アイ・ピー・エム(株)
 (公社) 日本化学会
 日本銀行
 国立研究開発法人 日本原子力研
 究開発機構
 日本システム開発(株)
 日本証券テクノロジー (株)
 (一財) 日本情報経済社会推進協会
 (一社) 日本情報システム・ユーザー
 協会
 日本信号(株)
 日本電子計算(株)
 日本電信電話(株)
 (一財) 日本品質保証機構
 日本放送協会 放送技術研究所
 日本マイクロソフト(株)
 日本無線(株)
 日本ユニシス(株)
 (株) 野村総合研究所

【は行】

(株) ハイエレコン
 パイオニア(株)
 (有) バクサリー
 パナソニック(株)
 パナソニック(株) エコソリューションズ
 社
 バルテス(株)
 (株) バンダイナムコオンライン
 (株) ビービット
 (株) ビズリーチ
 (株) 日立公共システム
 (株) 日立国際電気
 (株) 日立産業制御ソリューション
 ズ
 (株) 日立システムズ
 (株) 日立製作所
 (株) 日立製作所 中国支社
 (株) 日立ソリューションズ
 (株) 日立ソリューションズ・クリエ
 イト
 (株) 日立ソリューションズ西日本
 (株) 日立ソリューションズ東日本
 (株) 日立テクニカルコミュニケー
 ションズ
 (株) ビッグツリーテクノロジー&コ
 ンサルティング
 (株) ファースト
 (株) ブイキューブ
 フェアリーデバイズ(株)
 (株) フォーカスシステムズ
 (株) フォーラムエイト
 藤崎電機(株) 藤崎京都人工知能
 研究所
 富士通(株)
 (株) 富士通アドバンスエンジニア
 リング
 (株) 富士通エフサス
 (株) 富士通九州システムズ

(株)富士通ソーシャルサイエンス
ラボラトリ
富士フィルム(株)
フューチャーアーキテクト(株)
古野電気(株)
(株)プロトコーポレーション
北陸コンピュータ・サービス(株)
(株)堀場製作所
(株)本田技術研究所R&Dセン
ターX

【ま行】

マツダ(株)
三井情報(株)
(株)ミックナイン
(株)ミットヨ
三菱UFJモルガン・スタンレー証
券(株)
三菱スペース・ソフトウェア(株)

三菱電機(株)
三菱電機インフォメーションシステ
ムズ(株)
三菱電機インフォメーションネット
ワーク(株)
三菱電機コントロールソフトウェ
ア(株)
三菱電機メカトロニクスソフトウェ
ア(株)
(株)三菱東京UFJ銀行
三菱プレジジョン(株)
武蔵野美術大学
(株)メイテツコム

【や行】

ヤフー(株) Yahoo! JAPAN 研究
所
ヤマハ(株)

【ら行】

楽天(株)
リードエグジビジョンジャパン(株)
(株)リクルートホールディングス
(株)リコー
(株)リナックス総合研究所
(株)両備システムズ
(株)リンクレア
(株)レコチョコク

<入会予定>

(学)聖学院
セイコーエプソン(株)
チームラボ(株)
(株)ベストティーチャー
(株)三菱UFJトラスト投資工学研
究所

注) 一般社団法人・一般財団法人・公益
社団法人・公益財団法人はそれぞれ(一
社)・(一財)・(公社)・(公財)と省略した。

㊦㊦ 協力協定学会との正会員会費相互割引について ㊦㊦

各学協会との協定により、正会員会費が割引になります。ぜひ、ご活用ください。
本会 Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/member/kyoryoku.html>) にも掲載しております。

●協力協定学会名・相互割引率 (正会員会費が割引対象)

IEEE	(The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.)	10%
IEEE-CS	(IEEE Computer Society)	10%
ACM	(Association for Computing Machinery)	20%
CSI	(Computer Society of India)	20%

※協力協定学会の会員費割引については、海外関連団体 (http://www.ipsj.or.jp/annai/kanrenlink/os_relation.html) を
ご参照いただき、直接お問い合わせください。

●本会への申請方法

会費割引を希望する正会員は、次のフォームから申請してください。8月以降の申請は次年度会費を割引します。
正会員会費割引申請フォーム (<https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/mem/m-seikaiin-kaihiwaribiki.html>)
初めて申請する方は上記協力協定各学会正会員の会員証コピーを Fax 等で送ってください。割引適用は1学会分といたします。
※これから入会を希望する方も同様に申請できます。個人会員の入会方法 (https://www.ipsj.or.jp/nyukai_kojin.html) から、
入会申込書【正会員】をご確認ください。

■照会先：会員サービス部門 E-mail:mem@ipsj.or.jp Tel(03)3518-8370 Fax(03)3518-8375